

総社市教育委員会会議録

- 1 開 会 平成30年4月16日 午後 3時30分
- 2 閉 会 平成30年4月16日 午後 4時54分
- 3 場 所 総合福祉センター2階 技能習得室

4 出席又は欠席した委員

出席委員

教育長	山 中 榮 輔
委員長職務代理者	米 谷 正 造
委 員	林 直 人
委 員	小鍛治 一 圭
委 員	三 宅 眞砂子
委 員	上 岡 仁

5 会議に出席した者

教育部長	服 部 浩 二
参事兼庶務課長	弓 取 克 哉
学校教育課長	北 川 和 美
こども夢づくり課長	小 野 玲 子
生涯学習課長	横 田 優 子
参事兼文化課長	永 田 忠 幸
庶務課主幹	平 田 壮太郎

6 会議録署名委員

山 中 榮 輔	米 谷 正 造
---------	---------

7 付議事件

議案第17号 平成30年度総社市教育行政の基本方針を定めることについて

原案可決

8 議事の概要 別紙のとおり

開会 午後3時30分

山中教育長 ただいまから教育委員会を開会いたします。この教育委員会には、議案1件が付議されております。では、会議録の署名委員についてであります。会議録署名委員は、会議規則第16条の規定により、私のほか、出席委員中、米谷委員にお願いします。

山中教育長 では、議案第17号「平成30年度総社市教育行政の基本方針を定めることについて」及び関連のあります平成30年度主要事業について事務局から説明願います。

各課長 【説明】

山中教育長 ただいま事務局の説明がありました議案第17号について、質問はありませんか。

【質疑・答弁】

上岡委員 2ページの施策1 就学前教育の3番、保育士や各教諭の研修を充実しますとありますが、市独自の研修だと思うのですが、県がしているキャリアアップ研修でしたかね、お金を出すものですが、そこの兼ね合いはどうなっていますか。市立だけではなくて私立も含めた施策として考えるというふうに考えていますかね。

小野こども夢づくり課長 こちらは市独自の施策という認識しているのですが、今は詳しい説明ができないので、後程答えさせていただきたいと思います。

上岡委員 施策2の3番の保育士等の確保(2)の所に、保育士の負担軽減となる対策を講じるというところで、人的支援のことだと思うのですが、振興基本計画の中ではアンケートを実施して職場環境も改善するということが書かれているのですが、そちらの面はどのような考えでしょうか。

小野こども夢づくり課長 こちらの支援の方は給食の配膳ですとか布団をひいたり片付けたりというような保育士の資格が無くてもできるような方の支援についての施策でございます。

こちらにつきましては、6月補正予算にも1施設月額9万円ということで計上予定している所です。

上岡委員 職場環境作りはというふうに考えていますか。今年はやらないとか職場環境の改善とかですね、またアンケートを実施してね、そういうことをやりますよとこれには書いてあるのだけど今年はやらないのですか。

小野こども夢づくり課長 今年度、職場環境作りについては予定しておりません。

上岡委員 そうですか。

山中教育長 よろしいでしょうか。少し全体の答えが合っていないので、少し調べて、次回教育委員会でご説明させていただきます。

上岡委員 もうひとつだけよろしいですか。3ページの基本方針2 人間力日本一の総社っ子を育てるの施策5の2 道德教育の教科化を踏まえた品格教育の推進(1)ですけど、そうじゃ教育大綱の具現化のイメージを共有するって、イメージを共有するだけでいいのかと。

北川学校教育課長 この部分は非常に悩んだところでもありますけれども、まず、市長の方も

大変興味を持っていらっしゃるということもございまして、現在学校等と話をしながら教科化というそのものの勉強に加えて総社の教育大綱との絡みをですね、まずはイメージすることをさせていただいて、それから同時にイメージしながら実践できるところもあろうかと思うのですが、あまり早急にこういうことをしなさいというのも難しい部分があるのかなというのがあって、まずは今年度イメージを共有しながら次の一步をまた考えていくという段階でおさえられているところでもあります。もちろん共有しながら良いものができるよう実践させていくというふうに考えております。

山中教育長 ここは、そうじゃ教育大綱の具現化のため、学校との議論を深めるという形にしておいたほうが良いと思う。

20日に校長会と我々などが集まって部長も入って、そういうディスカッションしたことを皆にオープンにして議論していただく、それを少し時間をかけてやらないと要綱だけでは何かよく分からないですね。それだけでは学校が本当に統一的な教育ができるかという、ちょっと難しいかなと思っています。校長もそうですけども先生ごとにもあまりよく分かっていない先生もおられるので、新しい先生の比率が2割から3割ですが、この先生達にもきちっと伝えないとだめなので、体制がなかなか整っていないとうまくいかない。そこで検討委員会的な組織を作って、そこで議論したものを皆さんに提示をして協議をしながら進めるというふうにしないと今後うまくいかないと思います。

上岡委員 教科化の道徳、道徳の教科化、逆に言っても同じかもしれないですけど、この前言われた議論し実践するですかね、キャッチフレーズがね、品格教育とか、より一層重なってくる感じですよ。そう難しいことではないと思うのですね、むしろ歓迎する方向にきているかなと。この文言はいかがなものかなと思いました。

山中教育長 他にございませんか。

三宅委員 50ページの施策9アレルギー対策についてということなのですが、文科省の方から食べさすか食べさせないかという感じでおきてきて、各地域の学校教育関係の方は、牛乳がだめだったら給食のパンも食べさせないという対応をとる所があります。

給食のパンは脱脂粉乳を加えているということで、今まで食べていたのに食べられないという、でも今回のこの総社市の対応では、今まで通りに対応していただけるようになったのでありがたく思っております。

山中教育長 倉敷市はやっていません。リスクを避けるために。

三宅委員 今までやっていて大丈夫だったので、できるだけ食べさせる方向にと医療の方では言っているのに、食べさせないでいいのかどうか。

上岡委員 この文言じゃないのですが、総社市にどんな文化財があるのか。3年生から地域教材で勉強をするけど、文化財に特化したようなことではないのです。小学生にも文化財に触れられるような機会があれば良いなと思いますが、いかがですか。

絵画とか版画とか、おそらく全部観るような機会は無かったような気がするのですが、

そんなのがあったら良いなという話しです。

一部の子だけを集めて詳しくやるのではなくて、みんなが年間通して観られるような年度があってもいいのかなって思います。それは、郷土総社を愛する子どもにも繋がるかなと思いますね。

永田文化課長 学校教育課長と相談をして遠足等で埋文学習の館等に行っていたかのように話しはさせてもらっておりまして、今後も相談をさせていただきたいと思います。

三宅委員 それに関係してきらめき交付金の中でも、学力向上という構図もありますけれど、総社を知るという観点を入れていただけたら良いと思いました。

山中教育長 よろしいでしょうか。

林委員 5 ページ目の幼稚園・小学校・中学校に向けて、一貫した英語教育の推進という所ですけれども、以前、北川課長からですね、非常に総社というのはですね、ALTとかその辺のことを配置してですね、手厚くやっている。その反動でですね、反動というのはおかしいですけどね、実際のJLTとか日本の先生方の指導力というのは、どうも他市に比べて向上していないじゃないのかなということも見受けられるということを知りました。そういったことを考えていった時には、やはりその指導力向上のための研修施策というのをですね、これからは英語活動ではなくて英語教育、外国語教育となった時に、やはり取り組んでいかないといけないのじゃないかなと思うのですが、その辺どうなのかなという事が一点と、それから学力向上といったときにですね、読書もそうですし、英語もそうですし、様々なものが入ってくるんですけども、多分表しきれないのかなと思います。それをどういうふうに、例えば、こことこの同じ施策と重ねますよとかいうふうな表現方法というのは何かあったら、確かに学力ということについて色々なことが絡み合っていて、同時並行的に各課で進んでいるのだなというのが分かるような気がします。これは私の感想です。

北川学校教育課長 ご質問、ご指摘ありがとうございます。

まず、ALTを市独自で採用し、各学校に重層に配置している総社市としましては、教員からいうと非常にありがたい、子どもも楽しい外国活動を中心にどんどんと英語が嫌いじゃないよという子どもさんが多いのは事実だと思います。ただ一方で日本人教師の指導力そのものについてどうなのかというのは、任せっきりになってしまっていた部分というのはあるかと思いますが、ここにきて盛んに、特に小学校の校長先生、管理職中心として危機意識を持っていらっしゃるって伝わってまいります。

後程報告をさせていただくのですが、今度小中連携加配あるいは英語専科といった加配をさせていただくこともできましたし、小学校3・4年生を中心とした日本語教科指導のJTEという市費の臨時職員を配置するようにいたしました。こういったことを通して、当然その人に任せっきりになるのではなくて担任としてどういうふうに関わっていくかという指導力をまさに検討する段階に入るのであるかと思いますので、そういった時に人がいなかったら苦し紛れに自分でやってしまうということではなくて、実践をさせていただく場に、担任

もいながら同時に指導力を上げていく方向を持ってないかなと考えておる所であります。また後程、解説的なことは申し上げたいと思います。

それから、二つ目の学力が絡み合うという部分は本当に悩ましい所がありまして、広義の学力といったら本来大きな力、人間力を踏まえたものなのですが、特にここ数年はやっぱり学力学習、状況調査に現れてくる、特に学力の部門の事を気にされることが非常に多いのも事実であります。あの場面で言うと、学力と学習、学びに向かう意欲であったり、挨拶であったり、色んなことを通ってあって両方で見えていきたいと思いますとは言うのですが、やはり点数でポイントが何ポイント上がったとかっていうのを、保護者が、報道等でもありますので、そこに特化して考えてしまいがちになる事実はあります。今言われたように、もっと色んな所と絡み合って人間が成長していき、総合的に人間力が上がっていくと我々がもっと言っていないといけないし、それがこういった所にどういうふうに位置づけられるべきなのか、今お話を聞きながら私自身もどうしたら良いのかというふうに思いますので、今後もそういった所をアウトプットする際にも、どうした所とどういう連携ができるものかと引き続き考えていきたいと思っています。

上岡委員 もう1つだけ。林委員が言ってくださったから、この前も得点、英語の点数が悪かったからショックを受けたのですが、早急に中学校は改善すべきだと、小学校はまあ、とは言っても外国語活動が教科になるわけで、すぐにはというわけにはいかないでしょうけど、養成過程の中でちゃんと研修受けた、あるいはそういう授業を受けて先生になられた方がたくさんおられるわけで、小学校の先生になった中に英語科の免許を持った人はほとんどいないと思うのですね。まあ、何人かはおられるだけで。先生は持っていらっしゃるけどそういう人は少ない。そうしたら、そこをいじるよりも、中学校の方が圧倒的に悪いわけで、中学校の英語教育の在り方を本当に早急に考えていただきたいと思っています。こんなんじゃないかなかったですから、はっきり言って。全国平均より良い時には20点位良かった。私は中学校の英語の教諭だったので、もう本当にグサッときて辛い思いをしています。現場の先生方もそう思ってるんだろうけど、どうしたら良いかわからない。音声言語だけじゃなくて、文字言語もちゃんと指導しなければいけない、基本に立ち返ってやっていただきたいなと思います。

山中教育長 仰るように、ALTに頼りきっています。読み書きの所をきちっとやれていない、書くこともものすごく少ない。書くことによって覚える。それも減っている。話をするという会話の部分が減ってきて、そういう所も立ち戻って考えないといけない。それは共有しています。読み書きのところが低い。だから聞く話すはある程度高いけど、そういうことを前提に考えて共有しないとだめでしょう。小学校も一緒に、バランスよくです。ご指摘の通りです。

山中教育長 他によろしいでしょうか。

それでは、お諮りいたします。議案第17号について可決してよろしいか。

(異議なし)

ご異議がないようですので議案第17号については可決しました。

山中教育長 では私のほうからご報告をいたします。入学式と入園式、ありがとうございます。昭和中也英語特区で無くなるので特区申請ができませんので、英語はそのまま残しますけども、小中一貫校でやるということで、小中一貫校はカリキュラムを一緒にすることになりますが、具体的にどうするか、これから学校と連携して進めてまいります。

この基本方針の中に小中一貫校というのを入れれば、それで特に修正はしなくて良いというものの様なわけです。その代わりしっかり中身を詰めて進めていきたいと思っております。また、どういうふうにするかは、新しい校長先生に少し整理をしてもらおうと思っております。

それ以外に中高の連携というのがあるのですが、端的に申し上げてこれから生徒が減っていくとですね、優秀層は自分の行きたい学校に行くと言いますか、レベルの高い所に行く、私立もそういうふうになっていくので、生徒減になってしまうのではないかとというふうに思っておりますけど、そういう意味では義務教育も中高連携をどういうふうに進めるかをやっておかないと上手くいかない。幼小中までやっておりますけど、高校はあくまでの県の管轄ですので、そこでの連携をしないとスムーズにいかない、特に南高と総社高校との連携は模索をして、今は連携というか情報交換だけやってというところですけど、どういうふうにやっていくか考えて、県の教育委員会と連携しながら考えていきたいと思っております。以上です。

それでは次に報告事項にいきます。非常勤特別職の職員について説明をお願いいたします。

弓取庶務課長 失礼いたします。事前にお配りしております表紙が平成30年度教育委員会事務局名簿課長級以上というものになるかと思っております。こちらの方につきましては、こういった異動がありましたということでご覧いただきたいと思っております。

それから1枚お開きいただきまして、平成30年度教育委員会の非常勤特別職の名簿をつけさせていただいております。特に真新しい事はございませんが、1枚はぐっていただいて、最後から2番目ですね、総社吉備路文化館の部分でございますが、今まで2人体制でございましたが、今回、館長という形を設けまして、吉備路文化館の利用促進という形を進めてまいりたいと思ひ、こちらの役職を設けたところでございます。以上でございます。

北川学校教育課長 続きまして、平成30年度、学校医、歯科医、眼科医、耳鼻咽喉科医、薬剤師につきましてご説明申し上げます。続きのページで印刷してある通りでございます。新しく中央小学校も学校薬剤師の吉田先生、清音小学校学校歯科医の向井先生をお迎えして、それぞれの学校医を任命していただきたいというふうに考えております。続きのページは幼稚園にありますので同じくご承認をお願いします。

山中教育長 ただいまの説明に対してご意見、ご質問がありましたらお願いいたします。よろしいでしょうか。

それでは次に総社市特別支援教育推進センターについて事務局から説明願います。

北川課長 それでは、前回、前々回2回にわたりまして、学校教育課所管の業務に関しましてご質問等いただいておりますところでございます。大変申し訳ございませんが、まとめてご報告させていただきたいと思っております。

まず1枚目、総社市特別支援教育推進センターですが、より目的を明確にするために特別支援教育研修センターという名前も付設させていただきたいと考えております。機能といたしましては、教頭として日常的な特別支援教育の統括、特に総社市における特別支援教育の課題、それに対する企画、立案、運営等も含まれます。それから、特別支援教育担当者間の情報連携と教育研修、さらに巡回訪問等々。人員でありますけれども、お話した通り、きりり教頭としまして、前学校教育課主幹、貴志主幹がセンター長、北小学校が2人目の教頭としての配置となっております。相談部門に、市費臨時職員を1名さらに増員していただきました。これは富岡前養護教諭が臨床心理士等々の免許をお持ちで即戦力として相談員としての配置になりました。右側の通級指導担当の3番手も県の配置をいただきまして、新しく中藤教諭がこれに当たると言う報告をいただいております。組織としましても、非常に大きな組織になりました。管理職の教頭をいただきましたので、組織内のことに留まらず、総社市全体の特別支援教育の推進に向け、なお一層課題が多い部門でございますので、市教委と連携をしまして、この課題を解決してまいりたいと思っております。その課題の多くの事につきましては1枚めくっていただきまして、就学支援を充実させるため、今年度、教育支援委員会の組織を十分にいたしますし、回数や運営方法についても改善を図ってまいります。同時に専門家チーム、右側の図の点々の丸で囲んでいる3箇所でございますが、ここに重層にチームを組みまして、巡回相談の方を行って、より一層学校任せにしない、学校が判断に苦しむところに駆けつけて、色々な見立て、考え方を共有しながら、方向性を同じベクトルに合わせていきたいというふうに考えております。そうすることで、オレンジに囲んでおりますけれども、視点を共有するインクルーシブ教育や、通常の学級に指導力の向上に指してまいりたいと思っております。一番最後のページでございますが、更に巡回相談の細かなことも触れております。

まさに来週4月23日に第1回目の判定ではありませんが、今後の方針を定めるために集まっておいただき、翌5月6月7月と色々な相談に応じてまいりたいと思っております。

なお、作業療法士につきましては、倉敷成人病センターの河本先生、それから川崎リハビリ学園の森川先生というお2人の先生、これは本を書かれたりするような著名な先生でございますが、総社市でもこのたび来ていただけるようになりまして、こういった医療現場の視点も取り入れることで、より見立てを確かなものにしていきたいというふうに考えている所でございます。資料が横物になりましてこちらになります。これも何とかお見せさせていただいている所でございますが、具体的に教頭職が入ることで、どのようなイメージで今後進めていくかという概念図であります。それぞれの学校が今まで縦串でそれぞれの校長の先生のリーダーシップの元で行っていただいていた所ですが、校長先生あるいは特別支援教育コーディネ

ネーターとして経験がないものがたくさんおりますのでその考え方や推進力につきましては、各学校まちまちでございました。これはもう仕方のない部分があったのですが、それを横串に刺すべく、きらりの教頭先生が中心となって、協議会、校長先生、特別支援教育コーディネーター、あるいは下側の学級担任や支援補助員等々の担当者を集めて、情報提供、情報交換あるいはビジョンの共有、こういったことをすることで総社市が一丸となって、取り組んでいく体制を整えてまいりたいと思いますし、真ん中につきましては、通級指導者は今まで目の前にいる学校の通級の子どもさんだけの指導に没頭しておりました。そうではなくて、これからはもっと柔軟に兼務をかけさせていただきながら、場所を変え移動を変えながらOJTを進め、総社市全体の子どものことをこの通級担当者が見ていくと、同時に市全体の特別支援教育の問題点、課題点を持ち寄りながら、リーディングチームというものを組織して、この課題に解決に遂行していきたいと、それが一枚お開きいただきまして、総社市特別支援教育リーディングチームというものになります。こういったものを月一回定期的に改善することによりまして、我々市教委もそこにお邪魔をしながら問題を共有して、市全体の特別推進教育を推進していきたいというふうに考えておる所でございます。以上が特別支援教育推進センターきらりの説明でございます。

前々回、特別支援教育ではなくて、ふれあいの方のお話も少しということで宿題をいただいております、それがその次の図でございます。これは昨年度の3月にお出したものですが、昨年度末、それまでふれあい教室と言っていたところを、総社市教育支援センターという別名をきちっと位置づけ、新しく「引きこもり予防対策事業」といたしまして、その派遣登校支援員というものを配置して、より柔軟にそれぞれの不登校経験のあるお子さんに対応できるように仕組みづくりをしましたという図でございます。

そして最後、これも宿題にいただいていた小中学校職員の配置一覧、市費に臨時職員の配置数でございます。その書いてある通り、総勢116名ということで、これらのものを合わせますと本当に1億5千万を超えている額だったと思います。市の方には、複数無理を聞いていただいておりますので、今年度もこういう配置をしていただきました。その中でこの特徴的なのが、日本人外国語JTEという、学校力向上教員加配事業と書いてある一番右端です、これが日本人英語指導員JTE3名です。今年初めての配置になりました。

なぜこの配置を要望したかと言いますと、今年度から移行措置が始まって、教科化になる時に、今のままのスタッフではとても対応できないであろうと予想されましたので、このお願いをしたところ、予算を通していただきました。喜んでいたのでですけど、更に喜ぶ事がおきまして、これが県費の教員の加配が今まで東中学校ブロックで1人だけついておりました。これは中学校教員が小学校籍に転籍をし、東中ブロックの6年生を教えてまわるというようなことをやっておったのですけども、来年もそういった方がもう1人位もらえるといいなという要望を出しておりましたら、この小中連携加配及び小学校英語専科の合わせて5名いた

だくことができました。

詳しく言いますと、昭和中学校ブロックが1名、総社中学校ブロックで1名、東西中ブロックで1人ずつではなくて3名いただいて、兼務をかけるのは総小、東小、阿曾小というのが一つです。それから、西中ブロックでは、常盤小、清音小、西中で1つです。残った山手小、北小、中央小、池田小、混在する形にはなりますが、それでも良いということでもありますので、そこに1名ということで、より一層、小学校と中学校を行ったり来たりしながら、主に小学校の力を入れることとなります。こうなりますと、先程申し上げたJTEはもういらないのじゃないかというようなことも予想されたのですが、3年生、4年生にも、2年生、3年生等々含めてこれを補うために、JTEを今3名のところ予定で2名配置をしまして、総社小、あるいは常盤小、清音小といったところで先程の専科が出来ればきっと薄くなる所を、これを補う形で、今までは英語特区で随分予算の方使わせていただきましたけども、全市的に英語教科化を受けまして、指導力の向上を含めた体制をとってまいりたいと考えているところでございます。以上でございます。

山中教育長 ただいま事務局の説明に対するご意見等がありましたらお願いします。

よろしいでしょうか。

それでは、他にご報告等がありましたらお願いします。

三宅委員 よろしいですか。1枚物で用意したのですが、沖縄で麻疹の流行が起こっています、沖縄に修学旅行に中学3年生が行きますね。3月20日に台湾からの旅行者が麻疹と診断され、その後4月11日まで38名の報告があります。直接接触歴の無い0才児や小児の麻疹患者が報告されています。麻疹は感染力の強い重症の感染症です。特別な治療法はなく、命に関わる重症の合併症、脳炎などを起こします。2,000人に1人位起こして亡くなります。日本は平成23年3月にWHOより麻疹排除国と認定されました。しかし、その後も報道に合わせておりますが、外国から持ち込まれた麻疹が報告されております。発生をしてからでは遅いので、個人ではワクチンを2回摂取することにより発症を予防できます。

また、ワクチン接種率を95%以上に保つことにより、流行を防ぎ0才児やワクチン接種が出来ない人達を麻疹から守ることができます。世界で2016年の1年間におよそ9万人が麻疹で死亡したという集計がされています。ほんの40年、50年前は30万人とか40万人という恐ろしい数字なのですが、海外では麻疹が流行している地域もあります。海外旅行の前のMR、はしかじゃなくって麻疹と風疹のワクチンを摂取してください。子ども達は2回受けています。ワクチン接種率95%以上です。

1才児と年長さんは定期接種でお金は要りません。1才のお誕生日に、また年長になったらすぐに接種してください。1才以上であれば任意でMRワクチンを接種することができますが、8,000円から1万円位かかります。中学校の修学旅行は沖縄です。生徒を含め、職員の方もワクチンの接種歴は確認してください。問題は子どももですが、職員の方は一応ワクチン、やっぱり抗体を検査されているかどうか確認してください。30代、40代の方だ

と、1回しかしていない方とかそんな方が持って入ってという感じになっています。

保育園幼稚園学校での麻疹対策について、学校における麻疹対策ガイドラインというものが、文科省から出ております。これはちょっと古いのですが、新しい版で最近出ております。重要なことは、施設に関係している者、児童、生徒、学生、教職員、その他の職員、出来れば職員の家族に至るまでについて、麻疹の感受性者、要するに麻疹の十分な抗体が無く、ウイルスに曝露されると、感染、発症してしまう者を、麻疹を含むワクチン、MRワクチンで接種してください。子ども達は2回打っているから、学校の方ではワクチン接種、母子手帳を見て書いてもらうようとかにしてもらって、職員の方は、一応、採用のときに抗体検査をされているのですかね。どうなのでしょう。そのの所までをちょっと確認していただいて、問題は職員の方だと思います。この台湾の方も、インドネシアとかで感染してそのまま沖縄に来て、熱にあるのに動き回ってずっと居られたという感じでした。

子どもは大丈夫で、私達も必死でワクチンを2回接種しようと言っておりますので、もしも総社市内で麻疹が発症しましたら、持って帰るなり何なり、全国の報道で報告されますので、ワクチン感染者が感染する可能性がある人がどうするかという感じで学校に調査が保健所の方から入ります。一大事になりますので今のうちに対策をとっておいてください。以上です。

山中教育長 ありがとうございます。

それでは他にご質問はありませんか。

山中教育長 それでは次回の教育委員会の日程についてですが、既にご承知のとおり、5月21日月曜日、午後2時から資料展示室で開催いたしますのでご参集願います。

次に、次回6月の教育委員会の日程を調整したいと思います。事務局から提案願います。

(6月の教育委員会について日程調整)

山中教育長 では、6月の教育委員会は、6月18日午後14時00分から資料展示室で開催いたします。

山中教育長 この際、私より申し上げますが、米谷委員が4年間の任期がこの5月11日で満了になります。大変ありがとうございました。まだもう少しありますが、本当に色々ご協力をいただきました。ここで米谷委員から一言お願いします。

米谷委員 皆様本当に色々ありがとうございました。私が一番長かったように思います。私2期でその前に残任期間がございましたので、当時48歳位ですかね、難波先生、小野さん、森下先生、商工会の会長清水さん、県大の樂木さんが一番若くて僕が二番目に若い、今回も僕が二番目に若いということでお先に失礼いたします。立場こそ変わりますが総社市民ではありますので、総社市の教育文化に関しまして出来ることがございましたら、色々やっていきたいと思っていますので今後ともよろしくお願いします。どうも本当にありがとうございます。

ございました。

山中教育長 こちらこそありがとうございました。

山中教育長 それでは、これで審議がすべて終了いたしましたので、本日の教育委員会を閉会いたします。

【閉 会】

閉会 午後4時54分

上記記録している内容は、正確であるので署名する。

平成 年 月 日

教育長

委 員

職 員